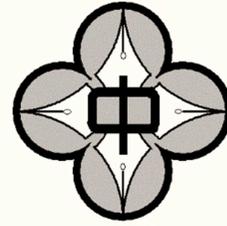




羅針盤～Compass～

土浦市立都和中学校 生徒指導部 2018. 7. 3 No. 4



7月の生活目標

「1学期の反省を生かして、夏休みの有意義な生活の仕方を考えよう。」

～経験を力に 成長の夏～

気付けば梅雨も明け、青空に現れる太陽の日差しは、ギラギラと夏本番の訪れを感じさせます。先月は市・県南総体が行われ、どの運動部も精一杯の姿を発揮してくれました。今月は県大会を控えています。最後まで必死に頑張る姿を全校挙げて応援したいと思います。一方で、残念ながら引退となってしまった9年生もいます。しかし、緊張感の中で味わったその貴重な経験は、今後の生活に必ず役立つものとなります。間もなく「夏休み」、生徒たちが1学期の貴重な経験を力に変えて「成長の夏」を過ごせるよう、学校やご家庭が一丸となって支えていきたいと思ひます。

生徒の皆さんへ ～清掃の目的～

目的という硬い話のようになりますが、まず清掃は「汚れているところをキレイにする」ための行為であるということです。人が生活するとどうしてもゴミが出ます。ゴミが落ちている状態をそのまま放置しておくと、そこにはさらにゴミが増えていきます。「どうせ誰も注意を払っていないのだから」と、さらにゴミが捨てられていきます。だからこそ、そんな状態にしないためにも清掃をしなければなりません。

しかし、生活をしている中でみんなが注意し、できる限りゴミが散乱していない状態を維持できればどうでしょうか。発想を転換すると、清掃は「清掃されている状態を維持する」ための行為と考えることができます。清掃が行き届き、いつもキレイに維持されている空間では、簡単にゴミは捨てられません。そのような場所では何となく自制心が働いたり、周囲の目を意識したりします。8年生が校外学習を行ったディズニーランドはそのいい例です。きちんと清掃に取り組むことで、「キレイ」を保つ。ゴミがゴミを呼ぶとすれば、キレイはキレイを呼ぶと表現できるかもしれません。過ごしやすい学校にするために、頑張れ都和中生！！

「都和の10の約束」

＜今月の重点目標＞

☆ 家族に学校の
できごとを話そう。

みなさんの学校生活において、家族は大きな支えとなっています。この重点目標を意識し、家族の一員としてできることを考えると共に、家族とのコミュニケーションをさらに図っていきましょう。

保護者の皆様へ

身体の変化を受け入れながら、親や友人との間で新たな関係を築きつつ、大人としての自分をつくり始めるのが中学生という時期です。この時期は、心身の変化が著しいため、心とからだの成長のバランス調整がうまくいかず、一時的に不安や混乱を生じる場合もあります。ご家庭でお子さんと接するときに、次のような思いをしたことはないでしょうか。

- ☆ 説教を始めたら、止まらなくなることが多い
- ☆ 子どもを褒めるのが苦手だ
- ☆ 子どもに嫌われるのが怖い
- ☆ 子どもを説得する自信がない
- ☆ つい手出し、口出ししてしまう
- ☆ うちの子に限って問題を起こすはずがない
- ☆ 親としてどうしたらいいか、わからなくなる



そこで、次のような提言が茨城県教育委員会から示されています。

「思春期の子どもへのかかわり方 10の提言」

- 提言1 たくさんの変化が出てきているとき、押さえつけず、個性が育ってきているという受け止め方で。
- 提言2 短時間であっても、1日1回子どもと向き合って話を、理屈っぽくならず、丁寧に子どもの話を聞いてあげるのがコツ。
- 提言3 「〇〇したら」と助言する前に、まず子どもなりの生きる不安や孤独感に触れて、共感しながら悩みを聞いてあげましょう。
- 提言4 「悩み」も健全に成長していることの証であることを伝えてあげましょう。そのことでずいぶん落ち着けることもあります。
- 提言5 たとえ忙しくても、ちょっとした努力で忙しく見せないことができます。普段から話しやすい雰囲気作りに努めましょう。
- 提言6 将来なりたいもののために、今どうしておけばよいか、子どもなりに勉強する意味が見えるように、将来像を今につなげる工夫をしましょう。
- 提言7 子どもとの関わりで、立ち止まり修正するゆとりを心がけましょう。親の考え方が、正論であるほど修正しにくく、子どもを責めがちになります。
- 提言8 主語のあるきちんとした対話を心がけましょう。「〇〇くんはそう思うんだ」「お父さんはこう考えるけど」などの話し方が、子どもの自覚に役立ちます。
- 提言9 子どもの特徴的な部分を直そうとするより、成長しようとする力を応援しましょう。そのため、子どもの持っているものややれることに注目しておくことです。
- 提言10 親自身が、今を充実して楽しんでいる姿を見せましょう。「あんなに楽しそうにしているいいな、大人になるっていいな」という思いにつながるメッセージになります。

大人は誰でも通ってきた思春期、今中学生はその真っ只中を生きています。お子さんたちが有意義に中学校生活を送るために、ご家庭での関わりについて振り返ってみてはいかがでしょうか。

『思春期の子どもと向き合うために』（茨城県教育委員会）より抜粋

人に勝つより 自分に勝て

嘉納 治五郎

